

担当教員 飯田 卓				
開始時期 前期	開講期間 半期	科目番号 20DCSc01	授業形態 研究指導	単位 2
キーワード 様式、技術、芸術		対象学年 博士課程 1-2 年	聴講・参加資格 専攻	
科目名称：日本語（授業概要の授業科目） 比較技術研究 I				
科目名称：英語 Lecture I (Anthropology of Technology)				
科目の概要：日本語 技術の伝承と流用、創作				
科目の概要：英語 Transmission, Appropriation, and Invention of Technology				
科目の目的： フランツ・ボアズ『プリミティヴアート』などをテキストとして、技術や芸術の様式に関わる文化的小よび物理的な諸要素について理解を深める。理解の進捗に応じて、技術革新や創造など、様式を革新していくいとなみについても適宜文献を指示し、理解できるようにする。				
学習成果・習得する技能や知識： 様式というテーマをとおして、物質文化や技術、芸術といった広いテーマを文化人類学的に議論する視点を習得する。				
成績評価方法・基準： レポートにより評価する。内容は、様式に関わる諸要素についてレビューしたのち、学生自身の研究に関わる要素について掘りさげて述べることを要件とする。				
授業内容： ① 対象としてのプリミティヴアート アートや生活道具、博物館生活資料とのちがいや重なりを解説する。 ② プリミティヴアートにおける技巧 装飾の条件、シンメトリーとリズム、熟練と独創など、技巧の諸側面を解説する。 ③ 象徴的表象と写實的表象 表現されたものの意味について、また人類学的な研究がその読解にいかにかに貢献するかについて解説する。 ④ 意味と様式 一定の地域または時代に生ずる共通性について解説する。 ⑤ 装飾を構成するかたちの諸要素 なんらかの具象物が、写実や抽象化によって、装飾全体を構成する諸要素と結びつくようすを解説する。 ⑥ 作りかたの技巧と要素の関係 素材と道具、身体技法といった技巧と要素の形状との関係を解説する。 ⑦ 諸要素の配置				

要素がパターンとして配置されるうえで神話などの観念がはたす役割を解説する。

⑧ 全体のかたちへの統合

装飾がほどこされる道具の形状やその使いかた、支持素材などにより、パターンがさらに複合されていくようすを解説する。

⑨ 音楽と儀礼における技巧と様式

無形のことからに関して、有形のプリミティブアートとの比較をおこなう。

⑩ 道具製作における技巧と様式

物質文化のうちでも機能的な道具に関して、プリミティブアートとの比較をおこなう。

⑪ 漁具の分類と様式

漁具を具体例として、道具の形態や様式と素材、製作技法、使用技法との関連を解説する。

⑫ 民俗知識と技術

素材の選択と製作技法、使用技法の重要性を指摘し、技術変化のさまざまなパターンを解説する。

⑬ 様式の変化と創造

技術や様式の変化と持続の区別に着目し、伝承をもたらす社会的背景および個人的背景について解説する。

⑭ 様式の持続と伝播

様式の変化や地域的広がりについてのいくつかの理論を解説する。

⑮ 現代における様式の有効性

商品の流通とイノベーションが進むなかで製作者と使用者・鑑賞者の距離が開くことで、様式のもつ意味が変化している現状を解説する。

日程：

金曜日 15 時 30 分～17 時、第 1 回は 4 月 15 日

実施場所：

国立民族学博物館本館 4 階第 1 演習室、ただし部屋使用状況や受講人数に応じて変更する可能性がある。

使用言語：

日本語

準備学習：

指定した参考文献『プリミティブアート』を事前に読み、授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。

関連科目・履修条件：

文化人類学または生態人類学に関して基礎的な知識を有すること

教科書・必読書：

フランツ・ボアズ『プリミティブアート』大村敬一（訳）言叢社、2011 年（原著 1927 年）

参考書・その他の教材：

各回の授業時間にプリントを配布する

備考：日本語

地域文化学・比較文化学の 2 専攻の学生のみ申請可